

長町・歩いて楽しい街並みづくり検討会
第3回 利活用ワーキンググループ会議録

- 1 日 時 令和6年12月23日(月)18時30分～20時
- 2 会 場 太白区役所4階 第2・第3会議室
- 3 出席者
委員：利大作委員、加藤隆委員、小島博仁委員、小林利一委員、鈴木有希子委員、堀内祥弘委員
(WG 座長)
※ 佐藤博委員、佐藤秀彦委員、渡辺由之委員は欠席
オブザーバー：柿沼敏万氏
コーディネーター：氏家滉一氏
太白区(事務局)：太白区長、長町地域活性化推進室長、長町地域活性化推進室 藤森主査、船水主査、木皿主任
- 4 次第・資料
 - 1 開 会
 - 2 ワーキングの内容について
 - ・社会実験の振り返り
 - ・ゾーンコンセプトの検討【資料1】
 - 3 意見交換
 - 4 閉 会

1 開会

2 ワーキングの内容について

堀内座長：

➤ まずは、社会実験の感想についてお聞きしたい。

鈴木委員：

➤ 3日間もイベントをするということは初めてで、疲労感もあった。来年度どのようにしていくのがいいのか、いろいろ考えるところがある。

加藤委員：

- 駅前西口広場で、いろいろとコンテンツづくりをした。特に屋台やたき火などに多くの来場があり、認知度向上に非常に成果はあった。
- 道路の利活用や、歩道と公園の一体的な利活用という部分に、まだまだ課題も残る。

小林委員：

- 高齢の方が、昔の長町とそっくりだと語っていたのが印象的だった。
- 今回が初めての取組みなので、今後2年、3年と工夫しながら継続してほしい。

小島委員：

- 土曜日は、さほど渋滞していない印象。主要交差点の右左折レーンの工夫などで改善可能だろう。
- 賑わいの点では、店先のベンチなどに見られる日常の延長と、駅前などに見られるイベント対応の2種類があるだろうが、今後、イベントを継続していくとなると疲弊してしまうという課題がある。
- 来場者が喜んでいる様子からは、自分たちも参加しているという雰囲気が感じられ良かった。

堀内座長：

- 今後、様々なデータが出てくると思うので、それを活用し各種課題を解決していきたい。
- 引き続き、事務局から社会実験の振り返り等について説明いただく。

<事務局より資料1に基づき説明>

3 意見交換

堀内座長：

- 社会実験の振り返りと、それも踏まえたゾーンごとのコンセプトについてのご意見をお聞きたい。

加藤委員：

- 今回の実験で、一丁目がポイントになると感じた。一丁目のしかけがあることで、一丁目から長町駅前に向けて歩く人の流れも見られた。また、その間の歩く空間のあり方など、いろいろ組み立てられると改めて感じた。
- 今回は、食べ歩きできるコンテンツがなかったので、ただ歩くことが多く残念だった。そういった部分等を改善していくと、改めて空間のあり方が見えてくるだろう。

鈴木委員：

- ゾーンイメージのイラストを、短期間でどのように実現するかという点について、実際はほど遠かった部分もあった。にぎわい作りのやり方としては、商店街や地域主体などそれぞれがやりたいことを実現できる舞台として、街並みを利用していくということになるのだろう。
- こども・ファミリーが外に出て来られるようなコンテンツが一丁目で展開できたらいいと思っている。今の子育て世帯にとっては遊び場や体験が少ないという課題があるので、職場体験のようなことがストリートで開催されたり、自転車の練習ができたりするのもよい。あるいは、今残っている商店街の姿を、ミュージアムとして残していけるようなことを考えていきたい。

小島委員：

- ゾーン分けをする背景に立ち返ると、1キロくらいある広い長町を回遊させる難しさに対し、それを何とかゾーン分けして、特徴のある街並みをイメージし、コンテンツを入れていこうということだろう。ただし、現状ではそこまでコンテンツがそろっている訳ではない。
- ゾーン分けにこだわりすぎず、歩かせるための拠点作りが必要。駅前にはエリアそのものが拠点になっているのでよいが、それ以外ではどこか集中的に基盤整備とコンテンツ作りをやる必要もある。
- 歩道が広がり、制度的に沿道店舗の方々が歩道に出ることを許容するエリアにしていくことが良いだろう。

小林委員：

- 今回が初めての取組みで、いろいろな要望、反省点もあるだろうが、それを次回に生かしていく、その繰り返しで5年かけたら何とかなるだろう。車道のベンチで飲食するのも、車とすれすれのところだったということも含め、工夫が必要な点はあった。2年目はどのように工夫したらいいのかを考えていけば良い。

堀内座長：

- コーディネーターに、今回のコンセプトについてお話をいただきたい。

氏家氏：

- 今回の目標としては、駅から一丁目まで回遊させるということに関して、特に土日の昼間という時間帯では成功したと思う。定禅寺通や青葉通の社会実験の関係者も見に来てくれて、これほど沿道の人達を巻き込む社会実験はなかなか見ないと絶賛していただいた。
- ミクロの視点では、歩道の切り下げ、乗入部が非常に多く、まとまった空間が作りづらい課題があった。これに関しては長町特有の課題として、いろいろな配慮が必要と実感した。

- 車道にテーブルを置くことに関してもいろいろなご意見をいただいた。様々な制約から今回はどうしても店側に置けなかったが、理想としては、歩道を広げて店側にテーブルセットがあるのが良い。

堀内座長：

- 自転車の通行空間についてはいかがか。

利委員：

- 朝、通勤・通学で自転車を使っている方は、歩道を走っている例も相当数見られた。ただ、時間が経つにつれて歩行者が多く出始めると、自転車通行空間を走る方が増えた。自転車通行空間を走らない例でも、お店に立ち寄りたいという方や高齢者の方など、自転車から降りて歩道上を押し歩く姿が増えた。自転車にとっても、どこが走りやすいかというのがポイントになっている。歩道のにぎわいが出てくると、自然と自転車通行空間を走るようになったと感じた。

堀内座長：

- 今回のアンケートで、自転車のことで何か事務局が把握しているものはあるか。

事務局：

- 自由記述意見では、社会実験中は通行がしやすい印象だったという好意的な意見や、商店街を目的地としてきた方にとっては自転車を停める場所がもう少し欲しいといった意見、通行空間が自動車と近く怖かったという意見などがあった。
- 歩行者と自転車を分離したことについてどう思うかという設問について、歩行者の安全性が高まったなど、好意的な回答が非常に多かった。一方で、自転車の通行ルールが分かりにくいという回答も一定数見られた。今回は速報値であり、今後分析を進める。

堀内座長：

- 自転車のあり方もいろいろ考えていかなければならない。
- ゾーン分けについて、ゾーンにこだわり過ぎなくてよいという意見も出ているが、いかがか。

(オブザーバー挙手)

柿沼氏：

- 社会実験、非常に象徴的な印象を持った。交通面では、金曜日は仙台南警察署から太子堂駅に向かって渋滞が伸び、通常長町駅まで2分で行けるところを30分かかった。ただし土日の同じ時間に渋滞は無く、曜日によって違いがある。お店については、金曜日はほとんどお客さんがいないものの、土日になると、たくさんの人が出てにぎやかだった。それを踏まえると、次の社会実験のときには、もう少し曜日あるいは時間帯を考えていただけるといい。
- ゾーンについては意識しすぎないで、地域の特徴あるものを引き出していくような方向性を考えてはどうか。今回の長町の歩いて楽しい街並みづくりは、おそらく何十年というスパンで街を作っていくということになるから、地域とともに、長町を自分の街と意識して進めていただければ。

堀内座長：

- 委員からも、ゾーン分けについて意見あるか。

加藤委員：

- ゾーン分けと言っても、明確に線引きがあるわけではない。一丁目から駅前まである程度一体感を持った中での、各区域のポイントというものがあるから、ゾーンが生まれてくる。街のあり方を検討するにあたり、ゾーンというのが恐らくわかりやすいだろうという意味合いと認識している。

鈴木委員：

- 前回もお話した通り、ゾーンの分け方はじっくりくるとは思うので、問題はないと思う。改めてこれ

が議題に上がった経緯を知りたい。

事務局：

- 長町は約1キロと長く、少し濃淡をつけて検討したいということで、ゾーン分け案を提示した上で、今回の社会実験においてある程度それを意識したコンテンツの配置をした。それを実際に見ていただいた中で、委員の所感をお伺いし、今後の検討につなげていきたいところ。

小島委員：

- 地域や商店街の方々からすると、このエリアの分け方がしっくりくるということを否定しない。例えば一丁目ゾーンがどこを意識するのかというと、リップルロードとかフラワー通り、十八夜観音、広瀬川灯ろう流しだろう。三丁目については、七十七銀行あたりまで、何かやっているかもしれないということで駅前から歩いたり、または蛸薬師の方との関係など、1つの拠点かと思える。そうするとその間の、リップルロードと七十七銀行あたりまでの区間は、特徴づけにやや課題があるか。

鈴木委員：

- ただ、社会実験で子育て世代の人气があったのは、たい焼き屋の前。他にも、豆腐店とか八百屋とか、商店街らしきみたいなものは一丁目にあると捉えている。

小島委員：

- 日常的な生活との繋がりがあがり、そこがくつろぎと安らぎということだろう。だからこそ、そこは一丁目と三丁目に分けなければいけないということではない。今回の社会実験でも、お店の前ヘテーブルを置いて、そこでくつろいでいるというイメージが、リップルロードから南の方、駅に行くに従ってあったと思う。しかしそうだったとしても、ゾーンを変えるという話ではなくて、そこを意識しながら、ゾーンとしてのコンセプトを作っていくより検討していくことになるのだろう。

小林委員：

- 長町は長く、一気にすべてはできない。十八夜観音や蛸薬師、長町駅など、まず点を充実させていき、点を増やして、面にしていけないといけない。まだ頭の中は整理がついていないが、今回やったことは非常に良く、次回に生かせればと思っている。

利委員：

- 今回は、まず3つのゾーンに分けた仮のイメージを作って、社会実験をやってみたところ。実際、長町駅前から一丁目に向かって歩く方もたくさんいただけでなく、逆に一丁目のリップルロード付近からスタートして駅前に向かって歩く方もかなりいた。いかに飽きずに歩けるかということで、そのための特徴づけはやはり必要だろう。特徴づけの方法として、ゾーン分けなのか、ポイントを埋めていく形なのか、手段としていろいろ考えられる。
- 曜日や時間帯により、人の動きが違うので、それに対してどのような作りにしていくのかもポイントの1つ。

堀内座長：

- コーディネーターより最後に一言いただきたい。

氏家氏：

- 今回1回目として、反省点を来年に生かせるよう、地域と一緒に取り組んでいきたい。

堀内座長：

- 皆さまから貴重なご意見をいただいた。今回の議論は、社会実験の調査分析などを踏まえて、今後に生かしていく。

以上